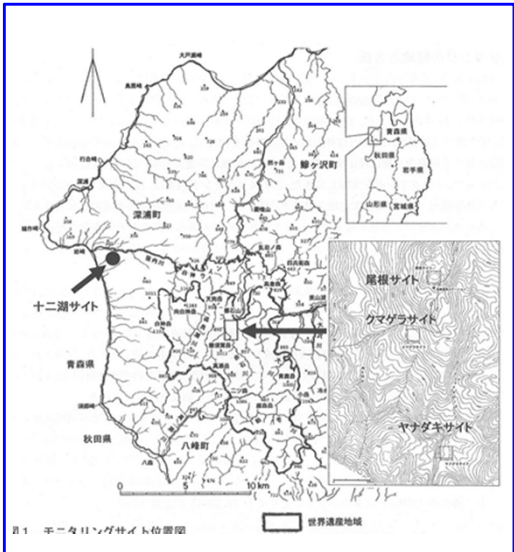


ID ^{注1)}	081102	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	紙	保管場所 ^{注1)}		前回ID	031108
-------------------	--------	----------------------	---	---------------------	---	---------------------	--	------	--------

報告書名称 / 調査名称	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査報告書（平成11～20年度）						発行年月/報告年月	
							2009年	3月
							資料形式 ^{注2)}	報告書
調査機関	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会・環境省東北地方環境事務所						委託機関	
調査開始年	1999年	6月	調査期間	1999年	6月	～	2008年	11月
調査頻度 ^{注2)}	毎年	1回	調査時期 ^{注2)}	春 夏 秋				
モニタリング計画	2012年3月 策定		区分 ^{注2)}	IIA	大区分 ^{注2)}	1	小区分 ^{注2)}	(1) (3)
調査箇所・範囲 ^{注3)}				調査手法				
☒ 核心地域 ☐ 緩衝地域 ☒ 周辺地域 ☒ GPS等の位置データあり  ※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。				■調査項目 ブナ林動態調査、ブナ遺伝子調査 ■調査箇所数 遺産地域内3箇所（ヤナダキサイト、クマグラサイト、尾根サイト） 遺産地域外1箇所（十二湖サイト） ■調査面積（コドラート面積等） 100m×100m（十二湖サイトのみ50m×50m） ■調査手法 《成木》…胸高直径5cm以上の樹木を対象 胸高直径、位置 《低木》…樹高50cm以上の樹木を対象 2m×5m枠、10コドラート/1サイト 樹高、地際直径 《ササ》 2m×5m枠、10コドラート/1サイト 桿長、地際直径（新規のみ）、生死、群落高（毎年） 《実生》…樹高50cm未満を対象 1m×1m枠、40コドラート/1サイト 樹種、生死、高さ（毎年） 《種子》…夏季のみ毎月回収 0.5㎡のリタートラップ、20個/1サイト 種子数（状態も確認する）、リター量 《光条件》…5年ごと 全天写真（2000年7月、2005年9月） 実生枠につき1地点、地表・ササの上（2m）から撮影 《ブナ遺伝子調査》 葉のサンプリング、DNA抽出・SSRマーカーの解析				
結果概要（スペースに収まるように入力してください）								
■ブナ林動態調査 ＜ブナ＞ 典型的な日本海側のブナ林の特徴を示し、ヤナダキサイトのブナ林は典型的なブナ原生林の構造であった。 ＜低木＞ 2006年以降、幹数密度が増加した。 ＜ササ＞ 2005年以降、林冠木の倒木により林冠ギャップが形成され、桿密度が増加した。 ＜種子・落葉落枝＞ ブナの種子生産は2000年に多かった（櫛石尾根では1000個以上/1㎡の落下を確認した）。 また、種子豊作年はリター量減少する傾向がみられた。 ＜実生＞ ブナ実生は、種子豊作年の翌年に一時的に増加したが、1～2年でほとんどが消失した。 ＜光条件＞ 林冠ギャップの形成により林床への透過率が増加し、林床の光環境が改善された。一方、林冠ギャップの形成により低木・ササ類の生育密度が増大した場合は、透過率が減少した。 ■ブナ遺伝調査 核心地域の3サイトおよび高倉森の集団はほぼ同様の多様性を保ち、尾根サイトを除くすべてのサイトにおいて半径30m以内での遺伝構造の類似性がみられた。また、地すべり地形とそれ以外の集団の間に遺伝的構成の違いがみられた。								
問い合わせ	環境省東北地方環境事務所 西目屋自然保護官事務所 〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1 TEL：0172-85-2622 FAX：0172-85-2635 ※「原本（データ）の帰属について」							

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。

注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。

注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

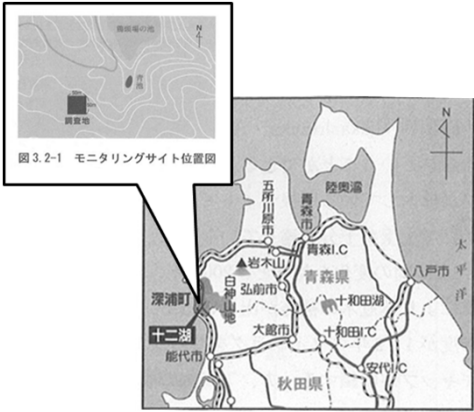


図 調査範囲位置（周辺地域）

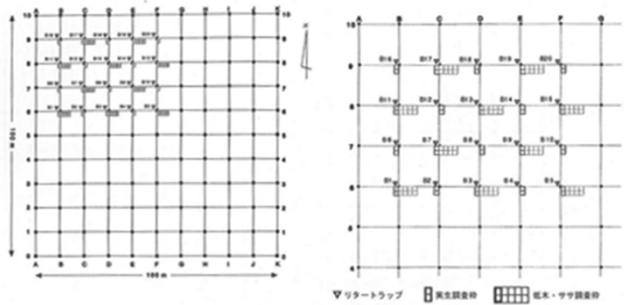


図 1.3-5 ヤナダキサイトの全容(左図)とリタートラップ、
低木・ササ調査地および実生調査地の配置(右図)

図 コドラート概要図